

カリフォルニアの風

第3号 令和7年6月11日 発行
サンフランシスコ日本語補習校
校長 相澤 順

幼小部2校で運動会開催

5月24日に幼小部サンフランシスコ校で、5月31日に幼小部サンノゼ校で運動会を開催しました。
サンフランシスコ校では‘寒さ’、サンノゼ校では‘暑さ’も何のそのといった感じで、子どもたちの頑張っている姿がたくさん見られました。

寒さに負けず、がんばりました！ 幼小部サンフランシスコ校

「運動会頑張るぞ！」→「ヤー！」のかけ声で、運動会は気合十分に始まりました。開催中はずっと寒く、徐々に風も強まる天候でしたが、午前の部・午後の部を通し、多くの子もたちが自身の出場競技に全力で取り組み、同じ色の組や級友へ、そろいの応援タオルを掲げながら一生懸命に応援している姿がありました。

各団体競技では、うまくいったりそうでなかったりと様々でしたが、仲間や親子で協力し合いながら懸命に取り組んでいる様子が微笑ましく、見ごたえがありました。



【最後まで全力疾走！：3・4年生
「徒競走」より】



【大玉「送り」より「運び」が大変!?
：5・6年生「紅白大玉運び」より】



【緊張のバトンパス：
「高学年紅白リレー」より】



【気持ちを合わせ集中！ボーとしていません！
：2年生「棒っとしないで」より】

暑さに耐えて、やりきりました！ 幼小部サンノゼ校

一週間前の幼小サンフランシスコとは真逆で、幼小サンノゼの運動会は暑さとの闘いでした。「校長先生、サンノゼはかなり暑くなりますよ！」と事前に言われてはいましたが、本当に日差しは強く、すぐのどが乾くようなコンディションの中、多くの子もたちは暑さに耐えながら、競技に真剣に取り組んでいました。転んでも最後まであきらめずに走り切る姿や

「赤！赤！」「白！白！」と精一杯、声を振り絞って応援している姿、競技中ずっと大きな（紅白の）旗を振り続けている姿など、力の限り頑張っている子どもたちを見ては感動していました。



【力いっぱいひっぱりました…
：5・6年生「綱引き」より】



【仲よく手をつないでコースに入ります！
：3・4年生「徒競走」より】



【みんなで勝敗の行方を見つめます！
：全校競技「大玉おくり」より】



【終了の合図まで旗を振り続けました！
：1・2年生「玉入れ」より】

本校は補習校といえども、授業時間の一部を使い、また、休み時間や昼休みをも利用して今回のような運動会を実施しています。子どもたちに日本の伝統的な学校行事を体験させていることは本校の教育運営の特色の一つであり、豊かな学びを保障していくうえで、大変貴重な時間・経験として大きな意義があると思っています。子どもたちにとって、今回の運動会が補習校生活の良き思い出の一つになり、今後の補習校での生活や学びに活かされることを期待します。

ご来賓、保護者の皆様には、厳しい寒さ（暑さ）の中、子どもたちにあたたかなご声援をいただき、誠にありがとうございました。

また、朝早くから終了まで、運動会の準備や運営にご協力をいただきました、保護者ボランティア、卒業生ボランティアなどの皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

<「運動会を終えて」児童の作文より。どちらも競技に挑んだときの気持ちがよく表れていますね。>

幼小部サンフランシスコ校 3年生 「つなひき」

きょうは、うんどうかいでした。うんどうかいに行くときは、「つなひきをがんばろう。」と言っていました。わたしにとってうんどうかいは4回目ですが、こんかいはじめてつな引きにさんかするので、きんちょうしていました。つな引きのまえに、「ときようそう」と「それいけきゅうきゅうしゃ」にさんかしましたが、ずっとつな引きのことを考えていました。つな引きだけは、れんしゅうしていませんでしたので、どうやって引っぱるのか、引っぱった後にどうなるのかわかりませんでした。

いよいよ、つな引きの番になった時、わたしはとてもたのしみで一番前にならびました。1回目は、なにも考えずに引っぱっただけでした。たまに手をはなしたり、ロープの上においたり、下においたりしてしまい、まけてしまいました。次はロープをはなさないようにがんばろうと思いました。

二回目の前にともだちに、「こんどは、声をかけ合って引っぱろう。」と言いました。そして、手をロープからはなさないようにがんばろうと思いました。二回目は、「よいしょ、よいしょ」と声をかけ合って、いっしょうけんめい引っぱりました。手をロープからはなさないようにしたので、かつことができました。みんなと手を空にあげてよろこびました。そのあとに手を見ました。赤くなっていました。じんじんいたかったです。でも、ともだちと「がんばったね。」と言いました。うんどうかいでいい思いでができてよかったです。

幼小部サンノゼ校 5年生 「心ぞうバクバク、徒競走」

「ドキドキ、ブルブル。」私の手と足がふるえていた。右と左どなりはリレーの選手だったからだ。三位以上になれるといいな。私は心の中で思った。

そう心の中で自分にささやいていた時、和田先生が、「いちについて…」と言った。みんな走るじゅんびをする。私もあわててした。私の心ぞうがもっとドキドキする。足がふるえる。おもくなる。頭の中は真っ白になる。「よーい…ピッ。」と、笛がなった。私は全力で走った。死んでもいいから、もっと、もっと速く。

ずっとただ走っていたら、結果、ギリギリ二位だった。やった。二位になれた。三位以上になった！と、うれしさがこみあげてきた。

そして、来年は徒競走で一位になって、立派な六年生になりたいと思った。そのために、たくさん体を動かしたり、運動したりすることを決意した。